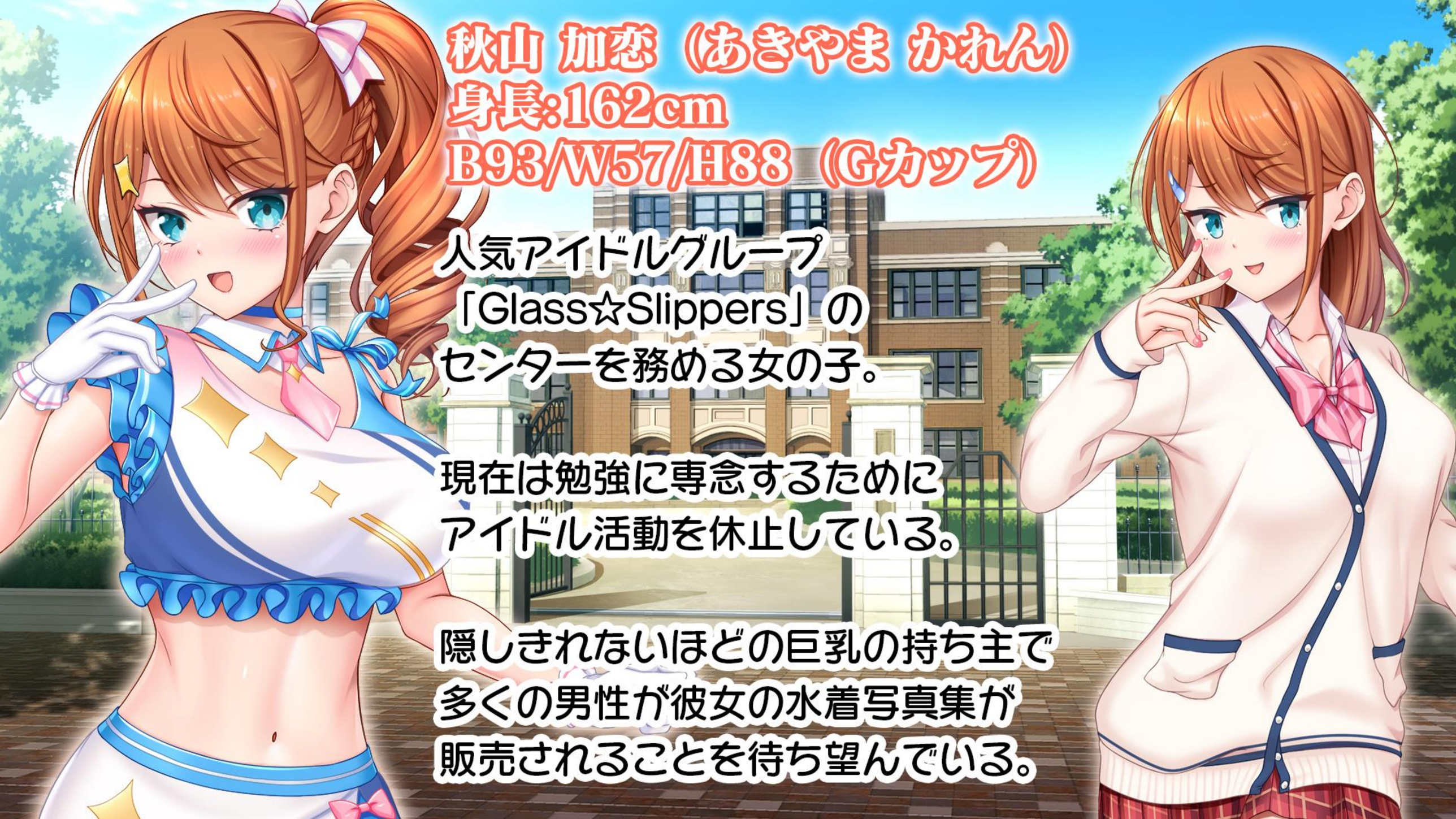
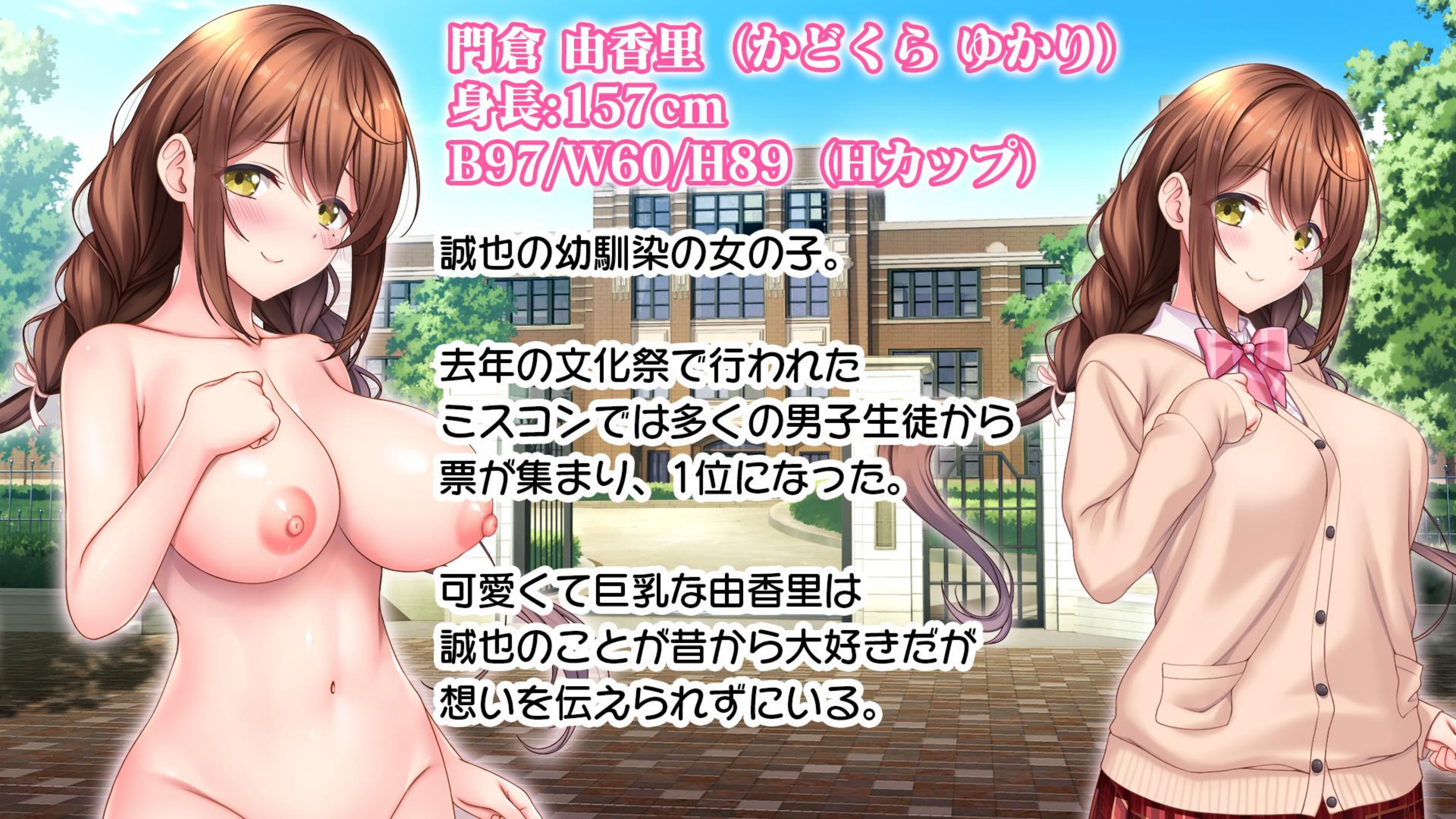
STUDIO
山のコン
PRODUCTS
成人向けCG集
基本CG12枚
本編枚数256枚
アイドルと幼馴染が
俺に処女を捧げてきた！
シンデレラガールと学園ミスコン1位が
俺のチ〇コを取り合う三角関係


秋山 加恋（あきやま かれん）
身長:162cm
B93/W57/H88（Gカップ）
人気アイドルグループ
「Glass☆Slippers」の
センターを務める女の子。
現在は勉強に専念するために
アイドル活動を休止している。
隠しきれないほどの巨乳の持ち主で
多くの男性が彼女の水着写真集が
販売されることを待ち望んでいる。


門倉 由香里（かどくら ゆかり）
身長:157cm
B97/W60/H89（Hカップ）
誠也の幼馴染の女の子。
去年の文化祭で行われた
ミスコンでは多くの男子生徒から
票が集まり、1位になった。
可愛くて巨乳な由香里は
誠也のことが昔から大好きだが
想いを伝えられずにいる。

秋山加恋（あきやま かれん）。
「Glass（グラス）☆Slippers（スリッパーズ）」という
人気アイドルグループの
センターを務める国民的アイドル。
名もなき少女だった彼女が
デビューしてから数年で
トップアイドルになったことから
「令和のシンデレラガール」と呼ばれている。
そんな彼女が
突然、活動休止を発表した。

活動休止の理由は
大学進学に向けて勉強に
専念したいと思ったからしい。

活動休止を嘆くファンもいれば
彼女の決断を後押ししたいと
思うファンもいた。

俺はというとそこまで熱心な
ファンではなかったが
彼女をテレビで見れなくなるのは
寂しいと思っていた。

……思っていたのだが。

えへへー
どう、アイドルの生乳は？
ニヤ
けっこういいおっぱい
してるでしょ、私？
……
たぷ たぷ
ぎゅ

おーい、五十嵐くん
五十嵐誠也くーん
聞いてますかぁ？

あはは！
黙っちゃうくらいアイドルの
生乳がいいのかな？

ぷるんっ

…なんでこんなことに
なったんだっけ？

俺はトップアイドルに
なぜ生乳を押し付けられているのかを
思い出してみることにした。

数週間前のこと。
ねぇねぇ誠也くん
近所のおばちゃんから
聞いたんだけど
どきどき
うちのマンションに
引っ越してくる人が
いるんだってさ
そういえば管理人さんも
そんなことを前に言ってたな

門倉由香里（かどくら ゆかり）。

俺の幼馴染の彼女は家が隣で
席も隣の女の子だ。

料理部の部長を務めていて
彼女の料理を味見しただけで
胃袋を掴まれた男子は多い。

見た目が可愛いこともあり
去年の文化祭で行われた
ミスコンでは1位に選ばれた。

ガラ
そんな話をしていた時に
担任が教室に入ってきたので
俺たちは会話を中断した。
そうなのか…
それは知らなかった
つまり私の家の
隣の隣だね！
しかも引っ越してくるのが
誠也くんの家の隣

きょ、今日はみんなに転校生をしょ、紹介する
あわあわ
転校生……？
高校三年の春にか？
キョトン…
なんだか、先生の様子がおかしいね

は、入りなさい
そして教室に入ってきた女の子を見て
ざわついていた教室は
一気に静まり返った。
ガラ

秋山加恋です！
あっ
自己紹介もした方がいいですか？
し～ん…
えっ
あっ……うん
しなくていいかな
みんな知ってるし……
担任の言う通りだった
人気アイドルグループのセンターを
務める美少女を知らない者は
このクラスにもこの学校にもいないだろう。

ザワッ
ザワッ
うっそ！ マジかよ！
本物!? 本物か!?
活動休止して
うちの学校に来たってこと？
ザワッ
ザワッ
ザワッ
ザワッ
ほ、本物の加恋ちゃん…
「Glass☆Slippers」のセンターがなぜここに…？
ヤバイ、理解が追いつかない…！
ザワッ
ザワッ
し、静かにしなさい！

席は五十嵐の前が空いてるからそこに座りなさい
ドキーン
えっ？
五十嵐、秋山のことを色々と見てやってくれ
じいっ
俺が秋山加恋に色々教えるのか…!?
ゴクッ
はい、じゃあ出席とるぞー！

担任は強引に話題をそらすことで
教室のざわめきを抑えたのだった。

よろしくね、五十嵐くん

キャ

こいつ♡

あっ

よ、よろしく…

冷静なふりをしていた俺だったが
俺も秋山加恋の大ファンで
彼女に話しかけられただけで嬉しかった。

ジ〜〜〜

……

わざわざ家の近くまで送ってくれるなんて五十嵐くんって優しいんだね

そ、それほどでも…ないですよ

モジモジ

あはは、やめてよ敬語なんてクラスメイトなんだからさ

まさかトップアイドルと一緒に下校することになるとは…

放課後になり家に帰ろうと
校門を出たところでキョロキョロと
辺りを見渡している秋山を見つけた。
話しかけてみると今朝は親の車で
学校へ来たらしく、帰り道が
よくわからないとのことだった。
そこで俺が彼女の家の近くまで
案内してやることを提案したのだった。
話を聞く限り
多分、俺の家と
方向は同じかな
よかった
それなら無事に帰れそうだよ！

あっ
なに、あのお店!?
アクセサリーショップ？

ちょっと、入ってみようよ！

えっ
ちょ、待って

テレビを見ていて感じたイメージと同じで
秋山は明るい性格の女の子だった。

なんか色々話してると
年相応の女の子って感じだな

その後、何度も寄り道をした後、
秋山の家の近くまで来たのだが――

はーい、到着！
えっ……？
そこは俺や由香里が暮らしているマンションだった。
ということは――

あはは、すごい偶然だね
まさか家が隣だなんて！
今朝、由香里が言っていた
引っ越してきた住人は
秋山たちの家族だった。
こんなことってある…？
私に聞かれてもねぇ
ニヤ

まぁ
なんにせよ、明日からも色々とよろしくね！

お、おう…！

その日から俺と秋山の仲はどんどん深まっていき教室でも学校の外でも気軽に話す関係になっていった。

そして数週間が経った。

その日も俺は秋山と一緒に下校していた。

途中で夜ごはんを買いたいと秋山が言ったので、俺は店の外で待っている。

最近は由香里とあまり一緒に帰ってないな

由香里は今日も料理部があるそうで『洋風煮込みハンバーグを作るんだ！』と張り切っていた。

具体的にどんな料理かはわからないがハンバーグは俺が大好きな料理のため食べてみたいと思った。

お待たせ！
カラオケ
ん…？
買ったのそれだけか？
秋山の手にはサラダチキンと
野菜ジュースだけがあった。
そうだよ！
今の体型、維持したいからね
でも
それだけだと
腹が満たされなくないか？

まあ…そこは我慢だね

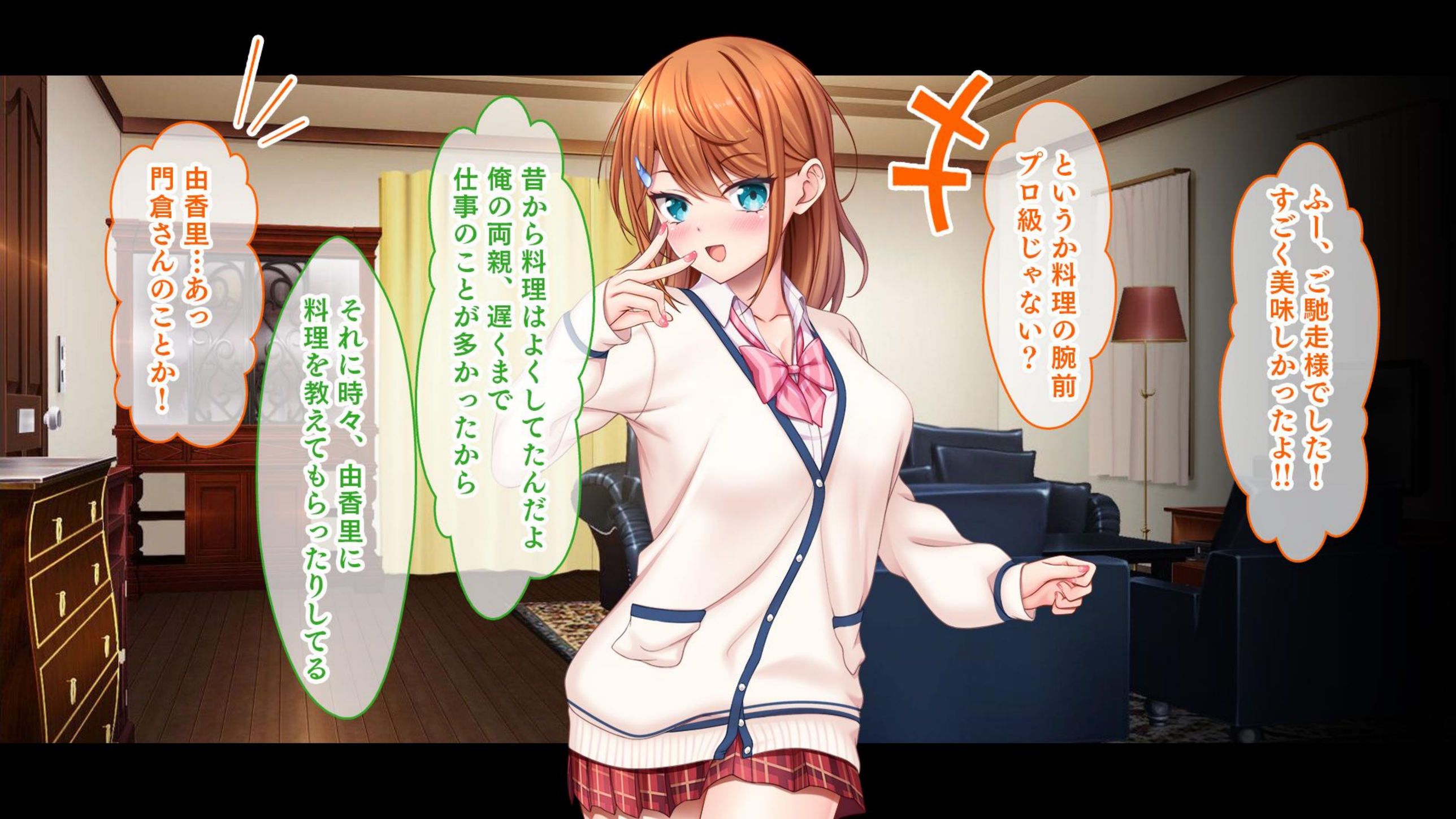
本当は料理とか作れたらいいんだけど…

私、料理作ったことあまりないんだよね

だったら、俺が何か作ろうか？

もじもじ

下心があっての提案ではない
俺と同じように大学進学のために
頑張っている秋山を少しだけ
応援したいと思ったのが動機だった。


ふー、ご馳走様でした！
すごく美味しかったよ!!
というか料理の腕前
プロ級じゃない？
昔から料理はよくしてたんだよ
俺の両親、遅くまで
仕事のことが多かったから
それに時々、由香里に
料理を教えてもらったりしてる
由香里…あっ
門倉さんのことか！

たまに勉強を見てやってて
そのお礼に美味いものを作って
くれたりするんだよ
たまに俺も手伝うこともあって
そのおかげで上達したわけだ
へー
あっ…じゃあ、私も何か
五十嵐くんにお礼をしないとね
何かさせてよ！
いや、別にいいよ
いや、いいって

どさっ

そんなことを言い合いながら
リビングで追いかけっこしていると
ソファに押し倒されてしまった。

股間の部分には秋山の胸が
当たっている状態で
その柔らかさを感じたせいで
勃起してしまった。

あれ、おっぱいに
何か硬いものが
当たってる…ふふ

となると、こういう
お礼が良さそうかな

ムクムク

秋山はいきなり
制服を脱ぎだした。

シュルッ

俺は状況を理解できず
身体が固まってしまい、
どうすることもできなかった。

——という流れがあって俺はトップアイドルの秋山に生乳を股間に押し当てられていたのだった。
おっぱい見た瞬間すごく硬くなったよ、ここ
んんっ♡
五十嵐くんっておっぱい大好きなんだね♡
ちが…あっ、いやそうかもしれないけど
ガミニミッ
ギュー
ギュー

とりあえず服着ろって
胸、見せてもらえただけでも十分、お礼になったからさ
私にだけ恥ずかしい格好させて終わり？
いや それはお前が勝手に…
たプン
たプン
ぎゅっ
ぎゅっ

言い訳は聞かないよ♪

それに五十嵐くんのここ
私のおっぱい、押し上げようと
するくらい膨らんでるし

苦しそうだから
解放してあげるね♪

ふふっ

ポロ…

ポロ…

ムニャ

ムニャ

秋山はチャックを下ろすと
俺の硬くなったチ〇コを
胸の谷間に押し込んだ。

ビクッ
うっ……！
できたできた
これ、パイズリって
言うんだよね？
ムニュ
ムニュ
ギュ
よく知ってるな…
さすがにアイドルの私でも
これくらいは知ってるよ
ぎゅぎゅ
ぎゅぎゅ
ずりずり
トップアイドルの巨乳に挟まれて
俺のチ●コはどんどん硬さを増していく。

こんなことまでしなくても…！
まあまあ、そう言わずにせっかくだから気持ちよくなっちゃいなよ？
はぁ♡
アイドルにこんなことされる機会なんてめったにないんだからさ
めったにどころか普通はないだろ…
ぎゅぎゅぎゅぐぐぐっ
すりすり
ぴくぴく

主導権を握っているのは秋山だ
俺は気持ちよさもあって
この時を楽しみたいと思ってしまう。

秋山の胸は手で触ってみたくなるほど柔らかくて、乳首が太ももに擦れる感触もたまらなかった。
我慢汁…変わった名前だね
ぶるっ
ぎゅぎゅ
ぎゅぎゅ
ぎゅぎゅ

あはは「似て非なるものだ」だって！

五十嵐くんって面白いね

なんか、五十嵐くんに興味が湧いてきちゃったよ

本当は少し前から興味が湧いちゃってるけどね♡

はぁ♡

ぬちゅッ

ぬぢゅッ

ぬぢゅッ

ぬぢゅッ

たぷ

たぷ

たぷ

たぷ

ぎゅ

ぎゅ

ぎゅ

ぎゅ

ぱん

ぱん

ぱん

ぱん

それで…いつまで続けるんだ？
えっ、五十嵐くんが気持ちよくなるまでだけど？
はっ♡
はっ♡
ニヤ♡
それって射精するまでってことか？
うん
せっかくだから精液がどんなものか見てみたいなぁ
ぬちゅッ
たプ
たプ
ぬちゅッ
むぎゅ

このままパイズリ続けてたら出せそう？
よかったじゃあ続けるね
……うん
たぷたぷ
ぬちゅぬちゅ
むぎゅ
ちゅ
でもお前の顔に精液がかかるかもしれないぞ？
まあ、いいよそれも込みでお礼ってことで
ぬちゅぬちゅ
ちゅ
はっ♡
秋山は胸をさらにギュっと押し寄せるようにしてチ●コを包み込んできた。

ちょっとコツも掴めてきたし
激しくしていくね
可愛らしい声を漏らしながら秋山は身体を上下に揺すっていく。
ちゅぱ
ちゅぱ
ぬちゃ
ぬちゃ
ぱこっ
ぱこっ
んっ♡
んんっ♡
五十嵐くん、可愛い顔してる♡
めちゃくちゃ気持ちいい……
ぎゅぅぅ

もっと気持ちよくなって色々な顔見せて
ほら…ほらっ！
はっ♡
はぁ♡
いいよ、ヤバくなって…！
はっ♡
秋山、それ…ヤバい
うっ…イく！
ドクン
ぬちゅ
たプ
たプ
はっ♡

みちゅるるる、

んはあああぁ♡

わっ、すご…これが精液かぁ
けっこうドロドロしてるんだね…
あまりの気持ちよさに我慢ができず俺は秋山に顔射してしまった。
はーっ
ドプッ…
ブルブル
どきどき
んふっ
いいよ、見たいって言ったのは私だし♡
悪い、思いっきり出しちゃった…

その時になって俺は家の鍵を閉めていなかったことを思い出した。

視界に入った時計を見るとちょうど由香里が部活から帰ってくる時刻だった。

えっ…？
ガチャッ
由香里は俺の両親からも信頼されていて
普段から俺の家を自由に出入りしている。
そんな彼女が最悪なタイミングで
やってきてしまった…。
ええええっ!!
これって…どういうこと!!
ゼクル
落ち着け、由香里
そうそう
慌てない慌てない♪
由香里に衝撃を与えている
当事者の一人、秋山は
呑気な様子だった。

…つまり、誠也くんが秋山さんにもご飯を作ってあげて
そのお礼に秋山さんが…エッチなことをしてくれたってこと？
ブルブル
…そういうことだ
由香里をソファに座らせてこうなったわけを丁寧に説明すると彼女は納得してくれた。

全然、納得できないよ！
納得してくれたと思ったのは俺の思い込みにすぎなかった。
そんなこと言ったら小さい頃から誠也くんにお世話になりっぱなしの私は
誠也くんとエッチなことしまくらないといけないじゃん！
じいっ
そういえば二人は幼馴染だもんね
そうだよ！

むしろ俺の方が由香里には世話になってると思うけどな
それは誠也くんの思い込み！
私なんて、誠也くんが一緒にいてくれるだけですごく…嬉しいんだから
モジモジ
…由香里？

由香里が顔を近づけてきて少しドキっとした。

…私にもお礼させてよ

誠也くんのそこまだ大きいままだしさ？

それって…

どきどき

だったら、おっぱいを五十嵐くんに揉ませてあげたら？
五十嵐くんおっぱい大好きみたいだし
ぷるんっ
…幼馴染なんだからそれくらい知ってるもん
えっ そうなの…？
俺の抱いた疑問に答えることなく由香里は身を寄せてきて――

んんんっ！
由香里は俺の顔を胸の谷間に挟み込み頭を優しく撫でてきた。
ギュ
むにゅ
むにゅ
むにゅ
ポフ
ぐぐっ
ん♡
はぁ♡
こんなことでお礼になるならいつだってしてあげてもいいよ？

トップアイドルにパイズリしてもらった後にミスコン1位の胸に顔を押し付けている俺は世界で一番、幸せな男だと思った。

ぐぐぐ!!
由香里の胸に顔を押し付けていく。
柔らかくて、いい匂いがしてこのまま死んでもいいとすら思ってしまった。
ぎゅぎゅ
ぴくぴく
ムニュムニュ
すりすりコスコス
ん〜っ♡
私がどれだけドキドキしてるか伝わってる？
うん 心臓の鼓動が速くなってるのがよくわかるよ
はーっ
あっ 私も誠也くんがドキドキしてるのわかっちゃった

誠也くんのあそこすごく硬くなってるもん
すりすり
ぎゅぎゅ
ぎゅぎゅ
コスコス
ギュー
ギュー
はあ♡
し、仕方ないだろ
あっ♡
おっぱい押し付けられてるしお前のお尻が刺激してくるし
むにむに
むにゅ
あはは、そうだね仕方ないね

秋山さんはお礼に射精までさせてあげたんだよね？
うん、そうだけど
じゃあ私も射精させてあげないとね
誠也くん私のおっぱい直接、触ってみる…？
ふーっ
いいのか？
うん いいよ♡
ぎゅぎゅ
ムニュムニュ
すりすり
ぐいっ

由香里は制服を上にずらし胸を見せてくれた。
綺麗ですべすべで柔らかくてとにかく最高の気分だった。
カバッ
ぷるん♥
ぽよっ
ぷるぷる
もみもみ
ぎゅっ
あっ♥
うわ、門倉さんのおっぱい私よりも大きいじゃん！
そりゃあ、五十嵐くんが嬉しそうに揉むのもわかるわ

ぬちゅ!!
くちゅ
ぬぷっ
ぬぷっ
誠也くんのもっと硬くなってきた…♡
ぬにぃ
んんっ♡
刺激してあげると気持ちよくなれるんだよね？
たぷ
たぷ
そうだな…
それならお尻でいっぱい擦ってあげる
すりっ
もみもみ

由香里のお尻に挟まれたチ●コからは
我慢汁が少しずつ漏れ出ていて
いやらしい水音が
聞こえてくるようになった。
由香里は濡れてきているようで
亀頭に擦れているパンツが
少しずつ湿り始めている。
はぁぁ♡
はぁ♡
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ

よかったよ
俺としても由香里には世話になりっぱなしだったからさ
由香里に気持ちちょくなってもらえてるならちょっとはお返しになりそうだし
誠也くん…♡
ぬちゅッ
くちゅ
ぷるぷる
たぷたぷ
ぬちゅッ
ひくッ
ひくッ
んんっ♡
ふーっ
もみもみ
くちゅ
ぷるぷる

由香里の腰の動きが激しくなり俺も胸をもっと堪能するように激しく揉みしだいていった。
見てるこっちが熱くなるくらいエッチな光景ね
ぬちゅッ
くちゅ
はぁ♡
たぷ
たぷ
もみ
もみ
あん♡
うん
誠也くん…！
あぁ♡
由香里…由香里！
どきどき
ぬちゅッ
くちゅ
パシッ

返事の代わりにパンツに亀頭を擦り付けまくる。

射精欲が極限まで高まった瞬間
由香里の胸を強く顔に押し当て
同時に亀頭をパンツに押し付けた。
ん♡
はっ♡
はぁぁ♡
たぷたぷ
んっ…気持ちいいっ！
ぎゅぎゅ
くちゅぎゅ
ぞくぞく♡
俺もだ…！
由香里…俺、もう…！
あっ…うん、いいよ
由香里…！
くちゅ
むにゃ
むにゃ
ぬちゅ♡
ぐぐっ

んんんんーっ♡

Bunbun

ビュッ
ビュッ
どぴゅっ
どぴゅっ
はーっ
すまん…由香里
はぁ…はぁ…
ぴくぴく
ぷにっ
ぷにっ
いいよ、気にしないで
はぁ…っ♡
ん♡
ドキドキ
射精によって由香里のパンツは
精液まみれになってしまった。

なでなで
むにゅう
むしろ、ありがとうって私の方から言いたいよ
気持ちよくしてもらっちゃったしさ
んっ
んっ♡
由香里…ありがとう
こちらこそありがとう♡
ふーっ
その後、俺が精液を拭きとっている間に由香里と秋山は服や身体を綺麗にするために一度、家に帰りしばらくしてから、このリビングに再集合した。

とりあえず今日のことは三人の秘密ってことで
どきどき
そ、そうだね
そうしよう
もじもじ

ところで由香里はなんで俺の家に来たんだ？

あっ そうだ、今日の部活でハンバーグ、作ったんだった

誠也くん、食べるかなと思って持ってきたんだよ

おっ そういえば洋風煮込みハンバーグを作るとか言ってたな

そうなんだよ！

ゴクッ

よかったら秋山さんもどう？
いいの？
もちろん！
それじゃあ早速いただくとするか

俺と秋山は少し前に
夕食を食べたばかりだった。

だが、由香里の洋風煮込みハンバーグは
そんなことを忘れさせてくれるくらい
美味しくて、お腹に入っていった。

俺たちはハンバーグを食べながら
担任の話や学校で広まっている噂などを
色々と笑いながら話し合った。

そのひと時は本当に楽しくて
俺たちの仲は深まったように感じた。

翌日のこと。

昨日、エロいことをした由香里と秋山が同じクラスにいるのはちょっと違和感があった。

だが、俺たちは意識的にそれを表に出さないようにしていた。

カーン

中間試験が近いのに来週、小テストだなんて…

ね、びっくりしちゃった…！

まぁ頑張るしかないな

由香里は今日は部活ないんだっけ？
うん 今日はお休み！
じゃあ、今日は三人で帰るか
あー ごめん、ちょっと迎えが来てて
迎え…？

加恋の話によると今日は事務所に行って
近況報告をしないといけないらしい。

ってことで、また明日ね！

秋山は高そうな黒塗りの車に乗って
校門から去っていった。

忘れていたわけではないが
やっぱり秋山はトップアイドルなんだなと
思い知らされる。

少し休憩するか？
そうだね、頭がパンクしそうだよ
くたぁ…
俺と由香里は明日の小テストに向けて一緒に勉強をしていた。
小テストの科目は日本史で由香里は暗記が苦手だった。
物事を順序立てて理解すれば自然と頭に入ると伝えたところ「誠也くんが順序立てて教えて」と言われ俺の部屋で勉強会をすることになった。

ずっと喋りっぱなしだったし
けっこう疲れたな

ありがとうね
丁寧に教えてくれて

リキリキ

…まあ、説明することで
俺も理解が深まってるから
気にするな

じぃっ

でも、ちょっとだけ
お疲れみたいだね？

…ちょっとな

その疲れ…
癒してあげたいな

ねえ誠也くん
私の膝に頭乗せて？

昨日のことを思い出して
急に胸の鼓動が速くなる。

また由香里とエロいことが
できるかもしれない。

そう思うと由香里からの申し出を
拒否なんてできなかった。

ゴクッ

この続きは、本編でお楽しみください！！